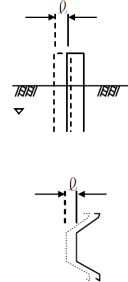
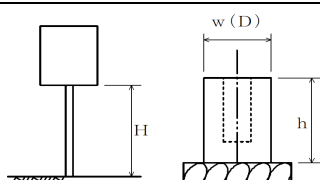
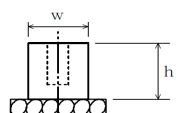
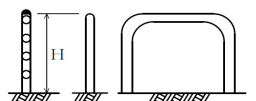
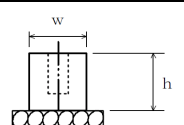
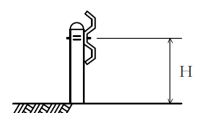
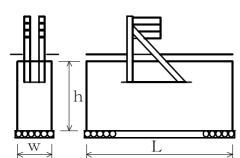
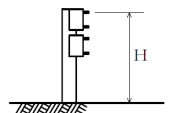
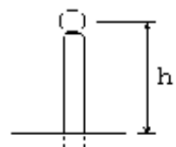
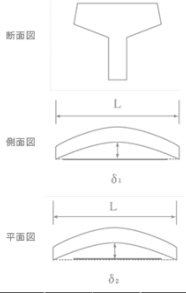
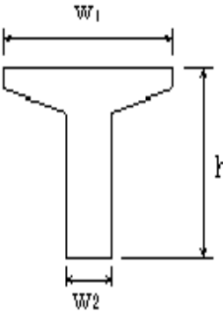


第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値（単位mm）

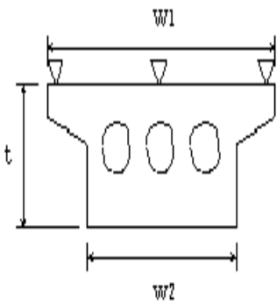
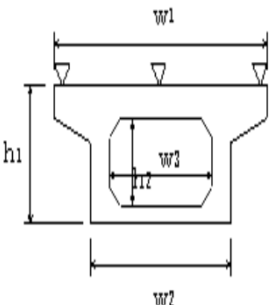
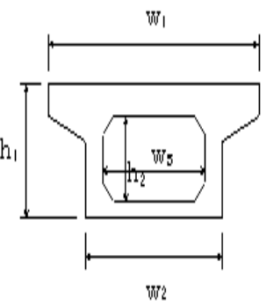
番 号		工 種	測定項目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
第3節 共通の工種	1-3-4	矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高 ▽	±50		基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1ヶ所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
			根 入 長	設計値以上					
			変 位 ℓ	100					
	1-3-5	縁石工 (縁石・アスカーブ)	延 長 L	－200		1ヶ所／1施工箇所			
	1-3-6	小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上		1ヶ所／1基			
			基 礎	幅 (D) w	－30				基礎1基毎
				高 さ h	－30				
				根 入 れ 長	設計値以上				
1-3-7	防止柵工 (立入防止柵) (転落（横断）防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	－30		単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1ヶ所測定。			※なお、補修工事は除く
			高さ h	－30					
		パイプ取付高 H	＋30		施工延長40mにつき1箇所、それ以下の場合は1施工箇所につき2ヶ所。				
			－20						
		パイプ根入れ長	－30						
			＋20						
1-3-8	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	－30		1ヶ所／施工延長40m 40m以下のものは、2ヶ所／1施工箇所。 施工延長40mにつき1ヶ所、それ以下の場合は1施工箇所につき2ヶ所。			※なお、補修工事は除く
			高さ h	－30					
		ビーム取付高 H	＋30						
			－20						
		パイプ根入れ長	－30						
	＋20								
	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基 礎	幅 w	－30		1ヶ所／1基礎毎 施工延長40mにつき1ヶ所、それ以下の場合は1施工箇所につき2ヶ所。			※なお、補修工事は除く
高 さ h			－30						
延 長 L			－100						
ケーブル取付高 H		＋30							
		－20							
パイプ根入れ長	－30								
	＋20								
1-3-9	区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上		各線種毎に、1ヶ所テストピースにより測定				
		幅 w	設計値以上						
1-3-10	道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30		1ヶ所／10本				
				10本以下の場合は、2ヶ所測定。					

出来形管理基準規格値（単位mm）

番 号		工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章 第3節 共通 一般 施工	1-3	1-3-11	コンクリート面塗装工	塗 料 使 用 量	鋼道路橋防食便覧Ⅱ-82「表-Ⅱ.5.5 各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗料系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量（充缶数）と塗付作業終了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。	
		1-3-12	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁 長 L (m)	± L / 1000		規格値のLに代入する数値はm単位の数値
				断面の外形寸法	±5		
				橋桁のそり δ ₁	±8		
				横方向の曲がり δ ₂	±10		
		1-3-12	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁 長 L (m)	±10… L ≤ 10m ± L / 1000… L > 10m		規格値のLに代入する数値はm単位の数値
				断面の外形寸法	±5		
				橋桁のそり δ ₁	±8		
				横方向の曲がり δ ₂	±10		
		1-3-13	ポストテンション桁製作工	幅 (上) w ₁	+10 -5		注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工程において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
				幅 (下) w ₂	±5		
				高 さ h	+10 -5		
				桁 長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15…		
				支 間 長	± (ℓ - 5) かつ -30mm以内		
				横方向最大タワミ	0.8ℓ		

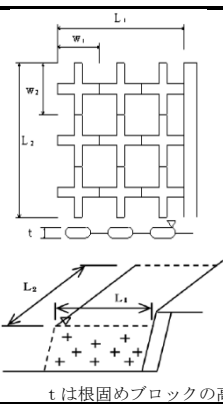
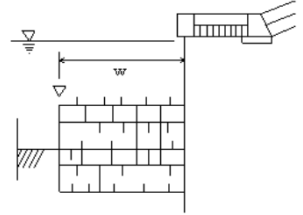
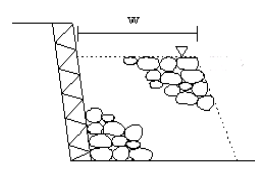
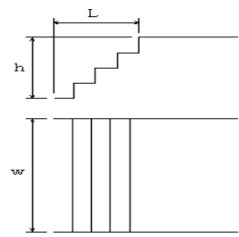
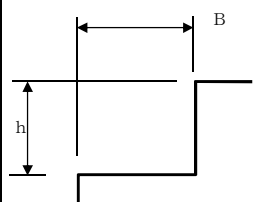
第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章 第3節 共通の工種 第1章 一般施工	1-3-13 プレキャストセグメント 製作工 (購入工)	桁 長 ℓ	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所にて測定。		
		断面の外形寸法	—			
	1-3-14 プレキャストセグメント 主桁組立工	桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 ℓ : 支間長 (m)		
		支 間 長	$\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内			
		横方向最大タワミ	0.8ℓ			
	1-3-15 P C ホロースラブ製作工 R C 場所打ちスラブ製作工 P C 版桁製作工	基 準 高 ∇	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 ヶ所 (支点付近) で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 1-18-2 床版・横組工に準ずる。 ℓ : 桁長 (m)		注) 新設のコンクリート構造物 (橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積 25m^2 以上のボックスカルバート (工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外)) の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
		幅 w_1, w_2	$-5 \sim +30$			
		厚 さ t	$-10 \sim +20$			
		桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内			
	1-3-16 P C 箱桁製作工 P C 片持箱桁製作工	基 準 高 ∇	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 ヶ所 (支点付近) で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び高さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 1-18-2 床版・横組工に準ずる。 ℓ : 桁長 (m)		リート構造物 (橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積 25m^2 以上のボックスカルバート (工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外)) の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
		幅 (上) w_1	$-5 \sim +30$			
		幅 (下) w_2	$-5 \sim +30$			
		内 空 幅 w_3	± 5			
		高 さ h_1	$+10$ -5			
		内 空 高 さ h_2	$+10$ -5			
		桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内			
	P C 押し箱桁製作工	幅 (上) w_1	$-5 \sim +30$	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3 ヶ所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 1-18-2 床版・横組工に準ずる。 ℓ : 桁長		注) 新設のコンクリート構造物 (橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積 25m^2 以上のボックスカルバート (工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外)) の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
		幅 (下) w_2	$-5 \sim +30$			
		内 空 幅 w_3	± 5			
		高 さ h_1	$+10$ -5			
		内 空 高 さ h_2	$+10$ -5			
		桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内			

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値（単位mm）

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章 第3節 共通の工事 第1章 一般施工	1-3-17 根固めブロック工	層積	基準高▽	±100	 tは根固めブロックの高さ	
			厚さ t	-20		
			幅 w_1, w_2	-20		
			延長 L_1, L_2	-200		
		乱積	基準高▽	± t / 2		
			延長 L_1, L_2	- t / 2		
	1-3-18 沈床工	基準高▽	±150	1組毎。		
		幅 w	±300			
		延長 L	-200			
	1-3-19 捨石工	基準高▽	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
		幅 w	-100			
		延長 L	-200			
	1-3-22 階段工	幅 w	-30	1回／1施工箇所		
		高さ h	-30			
		長さ L	-30			
		段数	±0段			
		けあげ高 h	± 3	立体横断施設に適用		
			± 10	コンクリート打放に適用		
			± 30	その他階段に適用		
		踏み幅 B	± 3	立体横断施設に適用		
			± 10	コンクリート打放に適用		
			± 30	その他階段に適用		

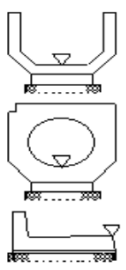
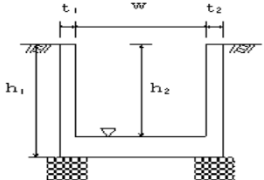
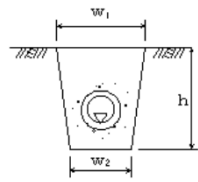
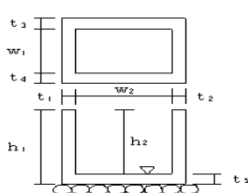
第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章 第3節 第1章 一般施工	1-3-24 伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	±3	車道端部及び中央部付近の3点を測定。 表面の凸凹は長手方向 (橋軸直角方向) に3mの直線定規で測って凸凹が3mm以下		
		表 面 の 凹 凸	3			
		仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し -2~0			
	1-3-24 伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高さ	据付け高さ	±3		
			車線方向各点誤差の相対差	3		
			表面の凹凸	3		
			歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2		
			歯咬み合い部の縦方向間隔W ₁	±2		
			歯咬み合い部の横方向間隔W ₂	±5		
			仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し -2~0		
	1-3-24 伸縮装置工 (埋設型ジョイント)	表面の凹凸	3	車道端部及び中央部付近の3点を測定。表面の凹凸は長手方向 (橋軸直角方向) に3mの直線定規で測って凸凹が3mm以下		
		仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0~+3			
	1-3-26 多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基 準 高	▽	±500		
		法 長	ℓ	-200		
		延 長	L	-200		
	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長	ℓ	-100		
		厚 さ	t	-0.2 t		
		延 長	L	-200		
	1-3-27 羽口工 (じゃかご)	法長 ℓ	ℓ < 3 m	-50		
			ℓ ≥ 3 m	-100		
		厚 さ	t	-50		
	1-3-27 羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高 さ	h	-100		
		延 長	L ₁ , L ₂	-200		
	1-3-28 プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基 準 高	▽	±30		
		※ 幅	w	-50		
		※ 高 さ	h	-30		
		延 長	L	-200		

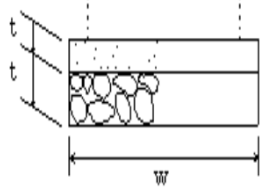
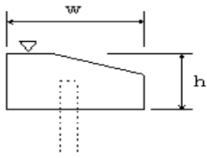
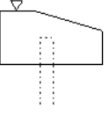
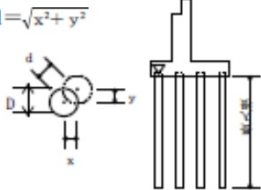
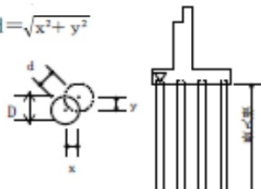
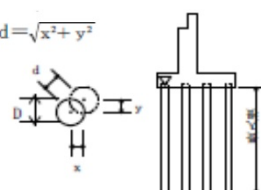
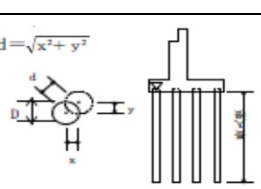
第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値（単位mm）

番 号		工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章 第3節 共通の工種 一般施工	1-3-29	側溝工 (プレキャストU型側溝) (コルゲートフリューム) (L型側溝工) (L型街渠工) (L0型街渠工) (自由勾配側溝) (管(函)渠型側溝工) (管渠) 排水構造物修繕工 (プレキャストU型側溝・管(函)渠)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
			延長L	-200	1ヶ所／1施工箇所		
		場所打水路工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
			厚 さ t ₁ , t ₂	-20			
			幅 w	-30			
			高 さ h ₁ , h ₂	-30			
			延 長 L	-200	1施工箇所毎		
		暗渠工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		(なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。)
	幅 w ₁ , w ₂		-50				
	深 さ h		-30				
	延 長 L		-200	1施工箇所毎			
	1-3-30	集水枳工	基 準 高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合		
			※厚さ t ₁ ~t ₅	-20			
			※幅 w ₁ , w ₂	-30			
			※高さ h ₁ , h ₂	-30			
	1-3-31	現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。		塗装終了時に測定する。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。	

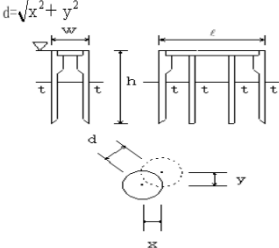
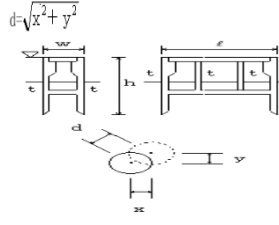
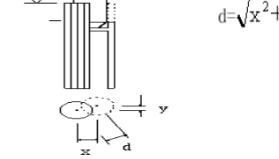
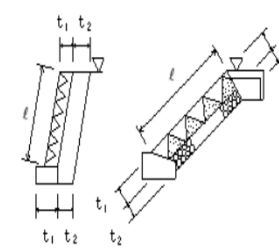
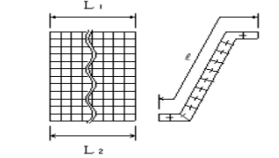
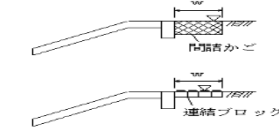
第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値（単位mm）

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章 一般施工	第4節 基礎工	1-4-1 一般事項 (床掘工)	基 準 高 ∇ 幅	± 50 -100	施工延長40mにつき1ヶ所、それ以下の場合は1施工箇所につき2ヶ所。	
		1-4-1 一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w 厚 さ t 延 長 L	設計値以上 -30 各構造物の規格値による。	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	
		1-4-3 基礎工（護岸） (現場打) 笠コンクリート工	基 準 高 ∇ 幅 w 高 さ h 延 長 L	± 30 -30 -30 -200	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	
		基礎工（護岸） (プレキャスト) 笠コンクリート工 (プレキャスト)	基 準 高 ∇ 延 長 L	± 30 -200	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	
		1-4-4 既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 ∇ 根 入 長 偏 心 量 d 傾 斜	± 50 設計値以上 $D/4$ 以内かつ100以内 $1/100$ 以内	全数について杭中心で測定。	
		既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基 準 高 ∇ 根 入 長 偏 心 量 d 傾 斜 杭 径	± 50 設計値以上 100以内 $1/100$ 以内 設計径以上	全数について杭中心で測定。	
		1-4-5 場所打杭工	基 準 高 ∇ 根 入 長 偏 心 量 d 傾 斜 杭 径	± 50 設計値以上 100以内 $1/100$ 以内 (設計径(公称径)-30) 以上	全数について杭中心で測定。	
		1-4-6 深礎工	基 準 高 ∇ 根 入 長 偏 心 量 d 傾 斜 基礎径 D	± 50 設計値以上 150以内 $1/50$ 以内 設計径(公称径) 以上	全数について杭中心で測定。 <u>※ライナープレートの場合はその内径、補強リングを必要とする場合は補強リングの内径とし、モルタルリングの場合はモルタル等の土留め構造の内径にて測定。</u>	

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値（単位mm）

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章 一般施工	第4節 基礎工	1-4-7 オープンケーソン基礎工	基 準 高 ∇	± 100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。 	
			ケーソンの長さ ℓ	-50		
			ケーソンの幅 w	-50		
			ケーソンの高さ h	-100		
			ケーソンの壁厚 t	-20		
			偏 心 量 d	300以内		
	1-4-8 ニューマチックケーソン基礎工		基 準 高 ∇	± 100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。 	
			ケーソンの長さ ℓ	-50		
			ケーソンの幅 w	-50		
			ケーソンの高さ h	-100		
			ケーソンの壁厚 t	-20		
			偏 心 量 d	300以内		
	1-4-9 鋼管矢板基礎工		基 準 高 ∇	± 100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。 	
			根 入 長	設計値以上		
			偏 心 量 d	300以内		
	第5節 石・ブロック工	1-5-3 コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。 	
			法 長 ℓ	$\ell < 3 \text{ m}$		
				$\ell \geq 3 \text{ m}$		
		1-5-4 緑化ブロック工	厚さ（ブロック（積・張）、石積・張） t_1	-50		
		1-5-5 石積（張）工	厚さ（裏込） t_2	-50		
			延 長 L	-200		
	1-5-3 コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)		基 準 高 ∇	± 50		
			法 長 ℓ	-100		
			延長 L_1, L_2	-200		
	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)		基 準 高 ∇	± 50		
			幅 w	-100		
			延 長 L	-200		